

4 . みんなはつらつ輝き地域づくり

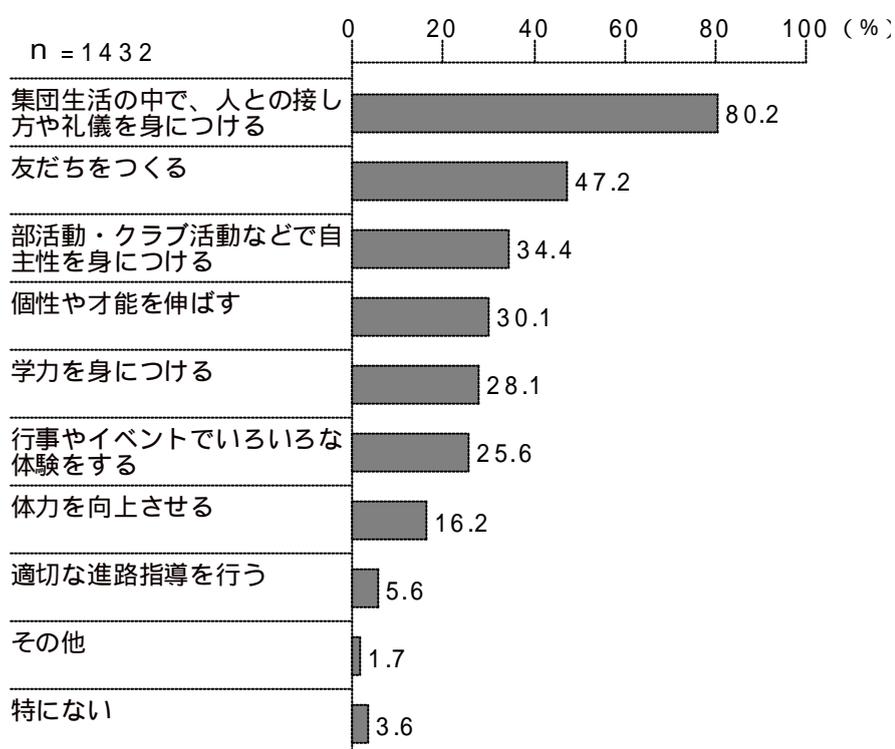
(1) 中学校までの学校教育に期待すること

「集団生活の中で、人との接し方や礼儀を身につける」が8割

(全員の方に)

問 17 . あなたが、中学までの学校教育に期待することは何ですか。特に期待することをお選びください。(3 つまで)

図 4 - 1 - 1

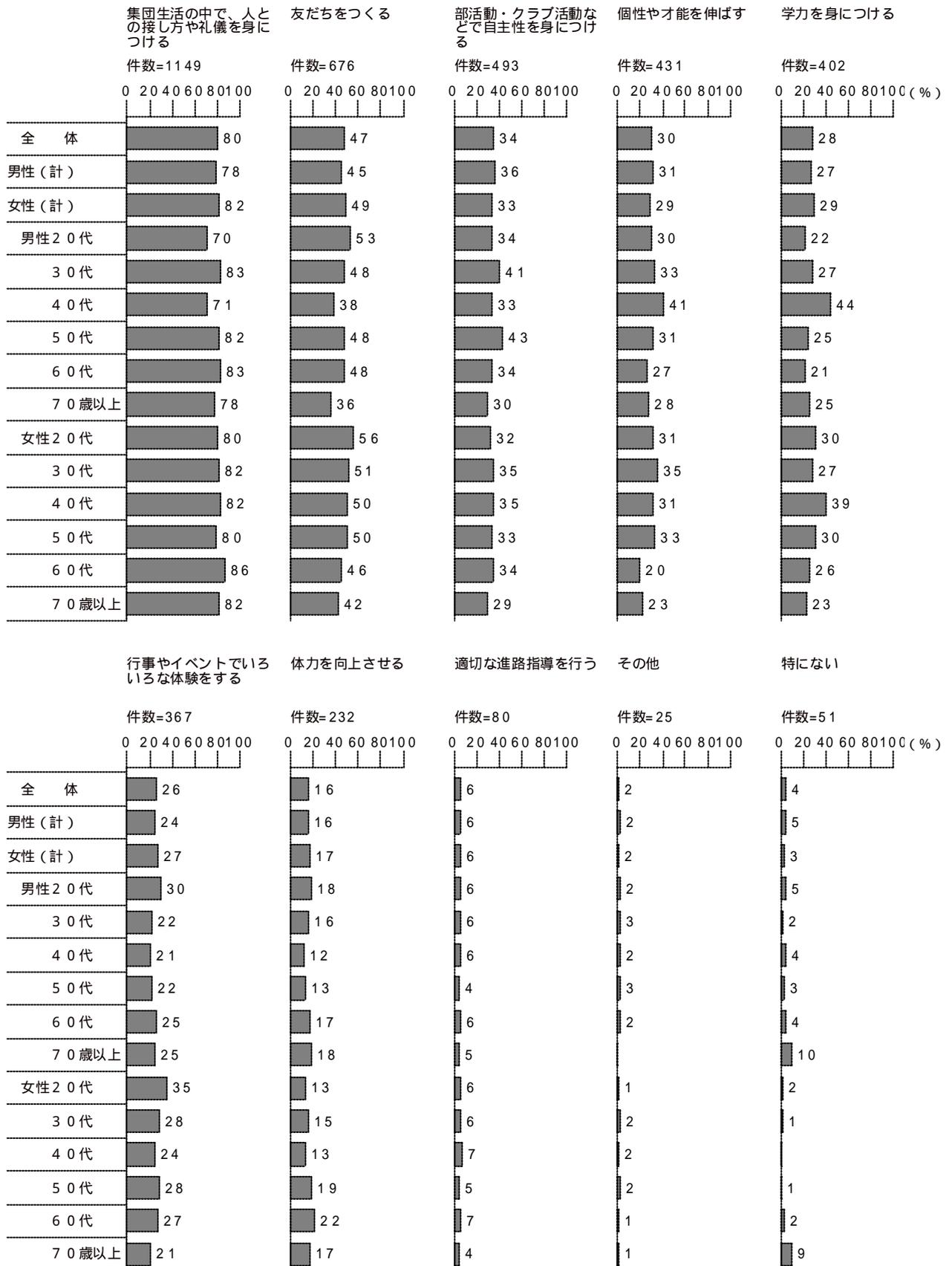


中学校までの学校教育に期待することは何か聞いたところ、「集団生活の中で、人との接し方や礼儀を身につける」(80.2%)が8割で特に多く、次いで「友だちをつくる」(47.2%)、「部活動・クラブ活動などで自主性を身につける」(34.4%)、「個性や才能を伸ばす」(30.1%)、「学力を身につける」(28.1%)などの順となっている。(図4-1-1)

性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

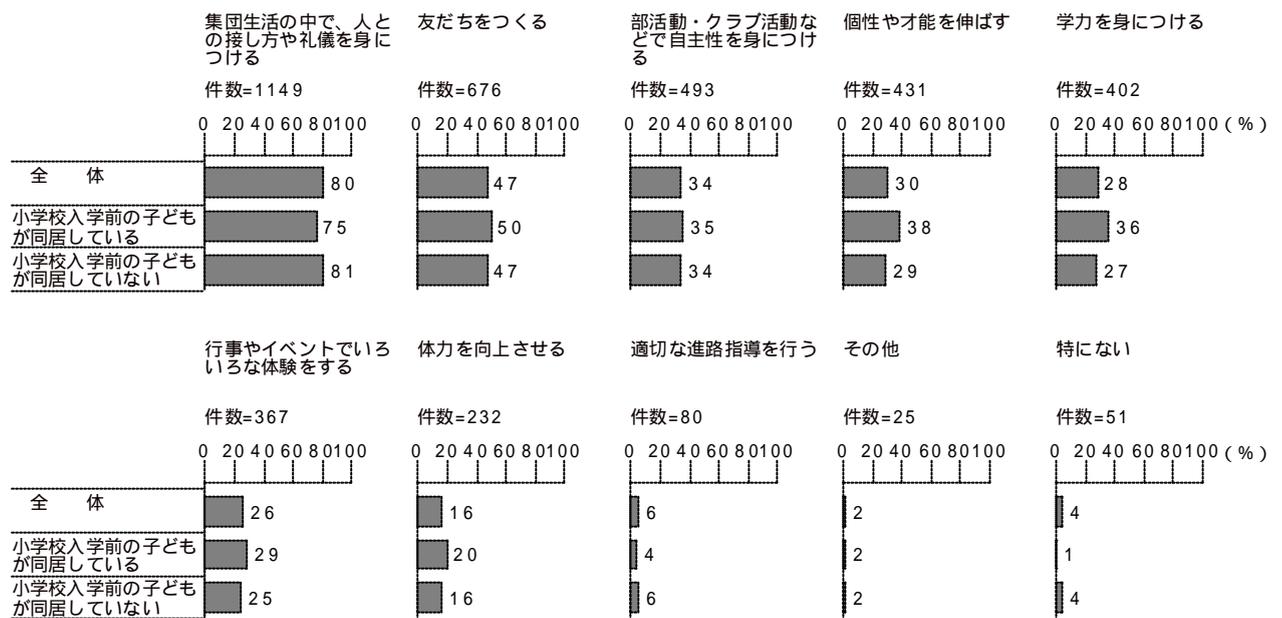
性・年代別にみると、「部活動・クラブ活動などで自主性を身につける」は男性の30代と50年代で4割を超えている。「学力を身につける」は男性40代で4割を超え、女性40代でもほぼ4割を占めて多くなっている。「行事やイベントでいろいろな体験をする」は女性20代で3割半ばを占めている。(図4-1-2)

図4-1-2 中学校までの学校教育に期待すること - 性・年代別



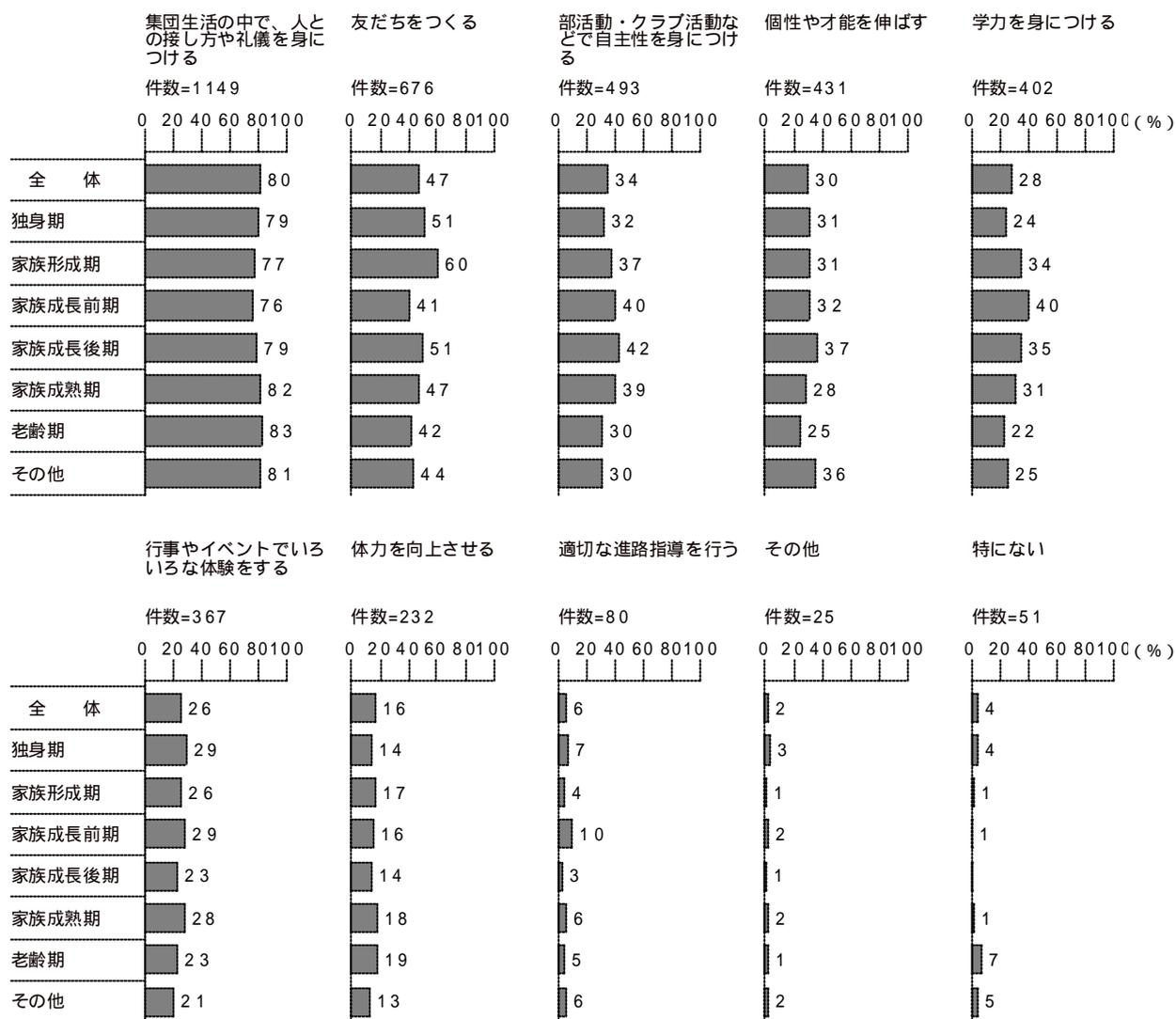
小学校入学前の子どもの同居の有無別にみると、小学校入学前の子どもが同居している世帯の方が同居していない世帯より「個性や才能を伸ばす」と「学力を身につける」でともに9ポイント高くなっている。(図4-1-3)

図4-1-3 中学校までの学校教育に期待すること - 小学校入学前の子どもの同居の有無別



ライフステージ別にみると、「友だちをつくる」は家族形成期で6割を占めて多くなっている。「学力を身につける」は家族成長前期で4割を占めて多くなっている。(図4-1-4)

図4-1-4 中学校までの学校教育に期待すること - ライフステージ別



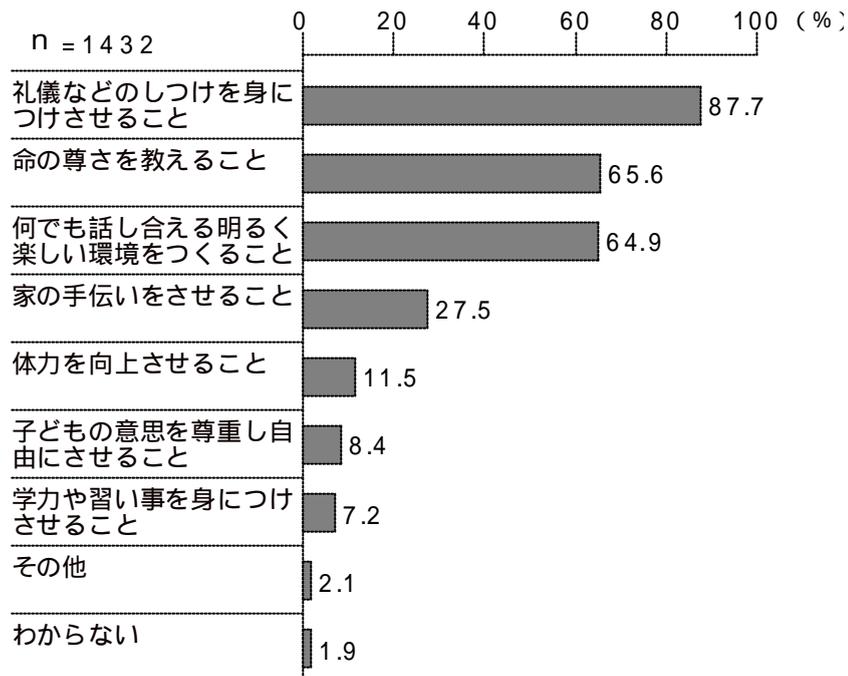
(2) 家庭教育で大切なこと

「礼儀などのしつけを身につけさせること」が9割近く

(全員の方に)

問18. あなたは、家庭教育で大切なことは何だと思えますか。(3つまで)

図4-2-1



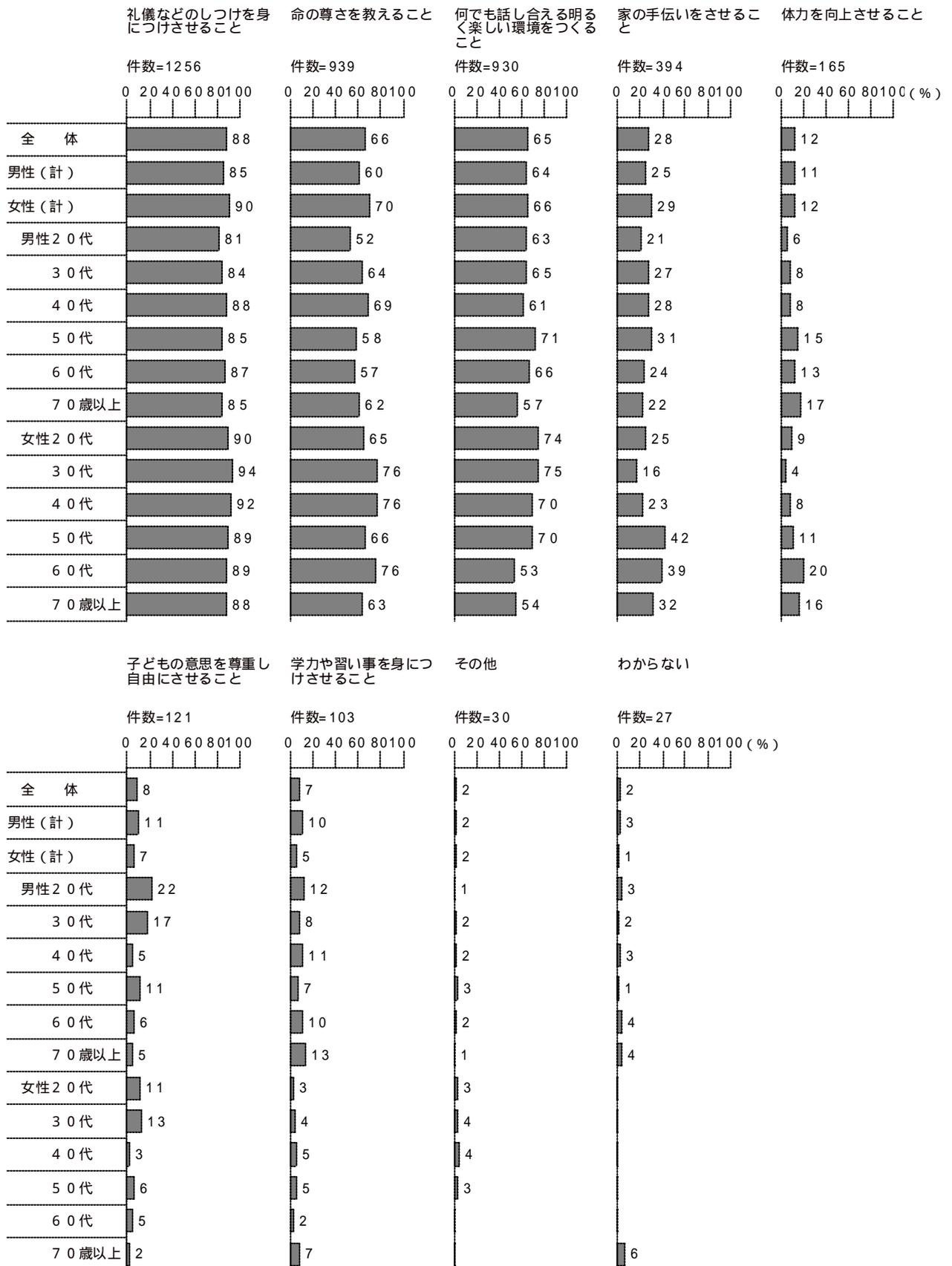
家庭教育で大切なことは何か聞いたところ、「礼儀などのしつけを身につけさせること」(87.7%)が9割近くで特に多く、次いで「命の尊さを教えること」(65.6%)と「何でも話し合える明るく楽しい環境をつくること」(64.9%)の2項目がともに6割半ばを占めている。以下、「家の手伝いをさせること」(27.5%)、「体力を向上させること」(11.5%)などの順となっている。(図4-2-1)

性別にみると、「命の尊さを教えること」は女性の方が10ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「命の尊さを教えること」は女性の30代、40代と60代の年代で7割半ばを占めて多くなっている。「家の手伝いをさせること」は女性の50代と60代の年代で4割前後を占めて多くなっている。「体力を向上させること」は女性60代で2割を占めて多く、「子どもの意思を尊重し自由にさせること」は男性の20代と30代の年代で2割前後を占めて多くなっている。

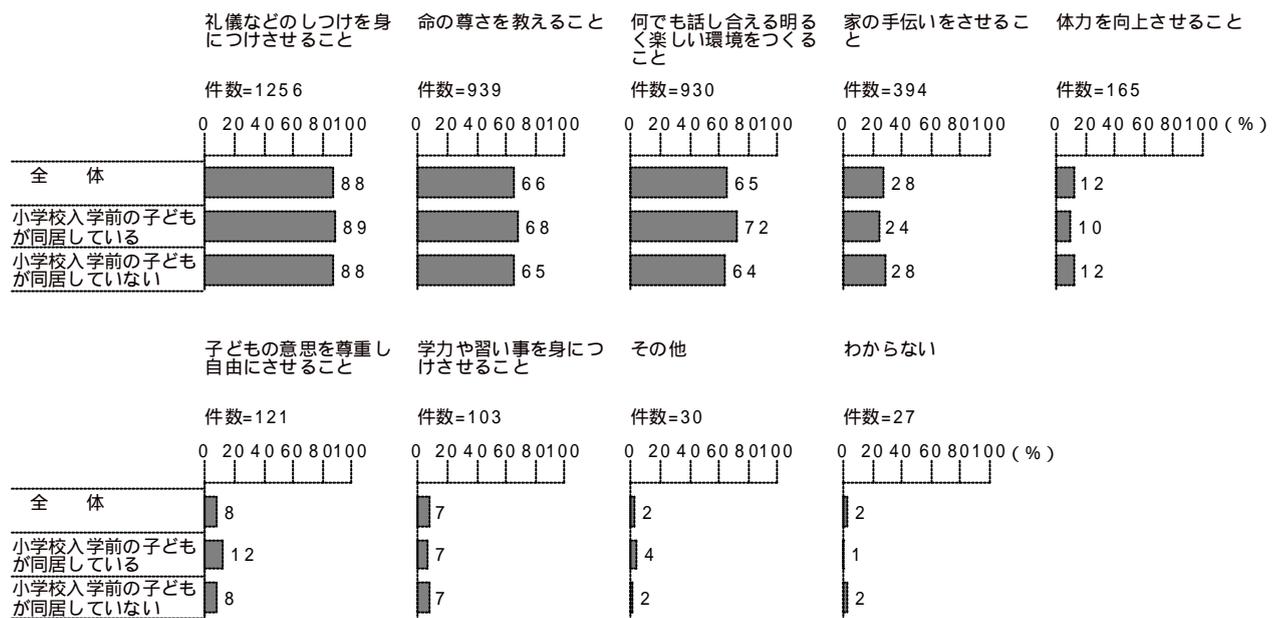
(図4-2-2)

図4-2-2 家庭教育で大切なこと - 性・年代別



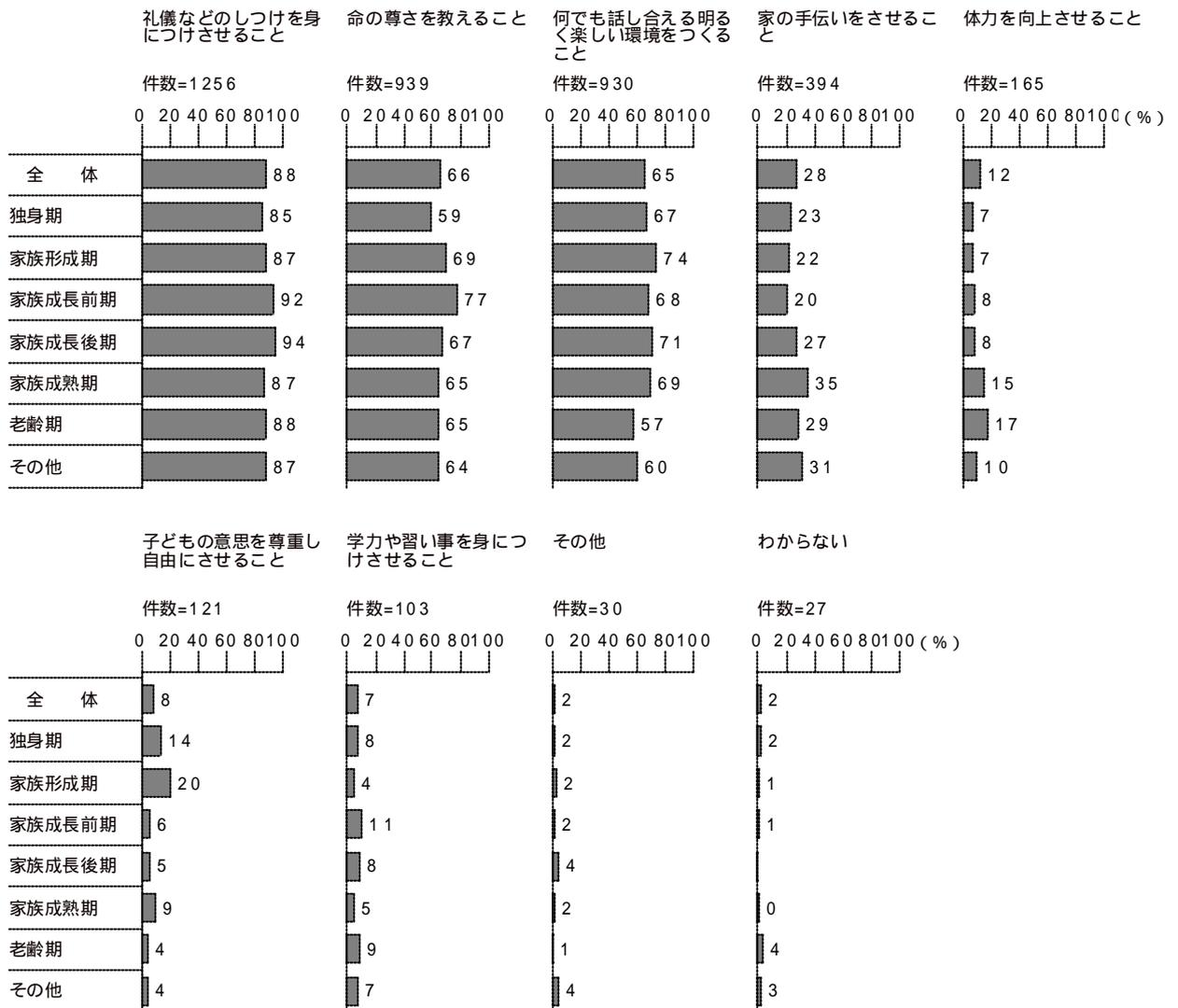
小学校入学前の子どもの同居の有無別にみると、「何でも話し合える明るく楽しい環境をつくること」は小学校入学前の子どもが同居している世帯の方が同居していない世帯より8ポイント高くなっている。(図4-2-3)

図4-2-3 家庭教育で大切なこと - 小学校入学前の子どもの同居の有無別



ライフステージ別にみると、「命の尊さを教えること」は家族成長前期で8割近くを占めて多くなっている。「家の手伝いをさせること」は家族成熟期で3割半ばを占めて多く、「子どもの意思を尊重し自由にさせること」は家族形成期で2割に達して多くなっている。(図4-2-4)

図4-2-4 家庭教育で大切なこと - ライフステージ別



(3) ボランティア活動への参加経験・参加意向

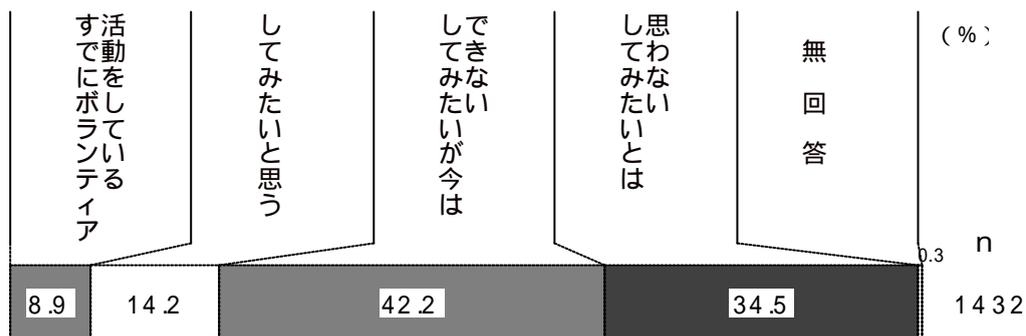
すでにボランティア活動をしている人は1割近く、してみたいと思う人は1割半ば

(全員の方に)

問19. あなたは今後、地域や社会に役立つボランティア活動をしてみたいと思いますか。

(1つだけ)

図4 - 3 - 1

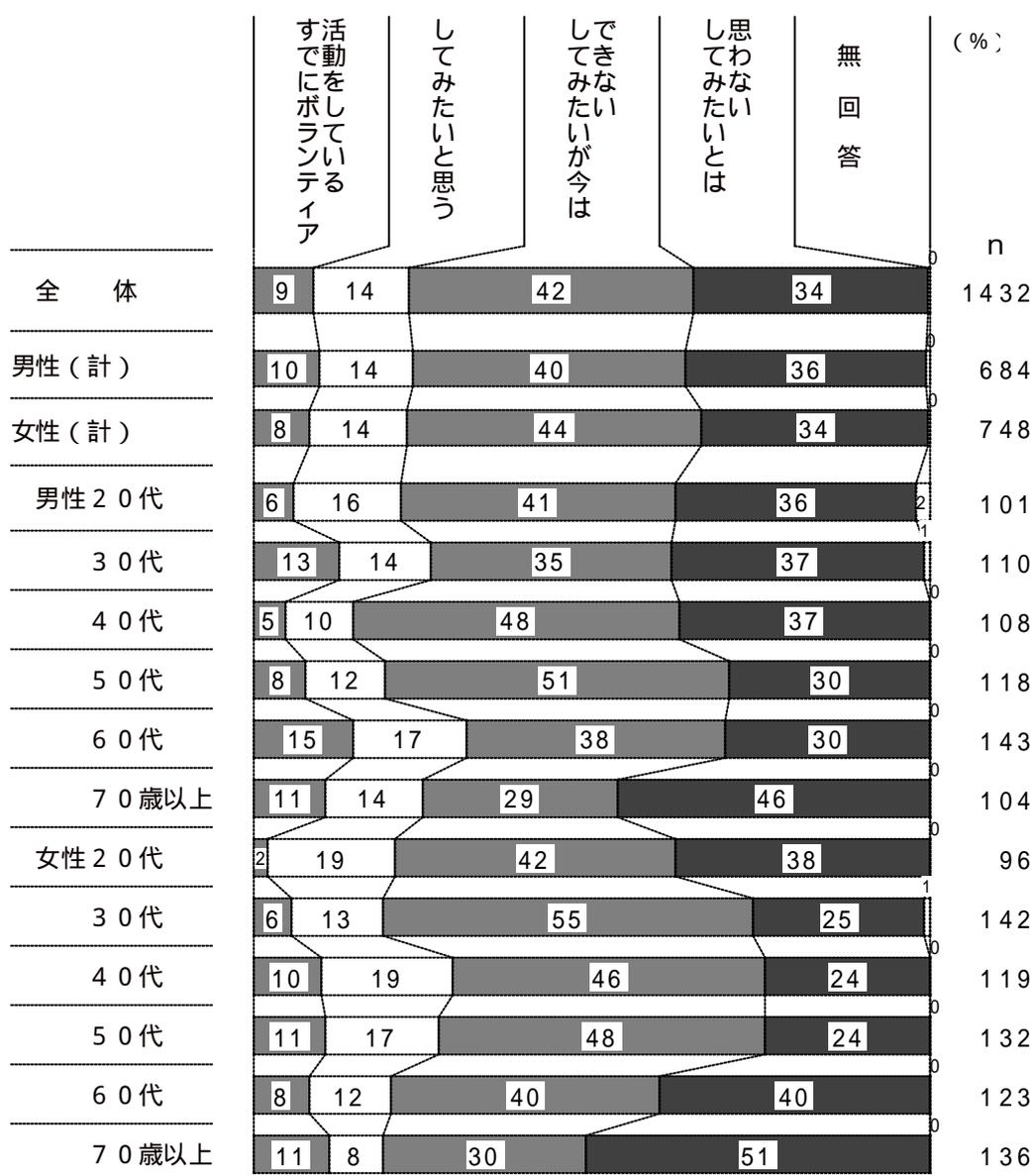


ボランティア活動への参加経験・参加意向について聞いたところ、「すでにボランティア活動をしている」(8.9%)は1割近く、「してみたいと思う」(14.2%)は1割半ばで、この2つを合わせた『参加意向(計)』(23.1%)は2割を超えている。「してみたいが今はできない」(42.2%)は4割を超えており、「してみたいとは思わない」(34.5%)は3割半ばである。(図4 - 3 - 1)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

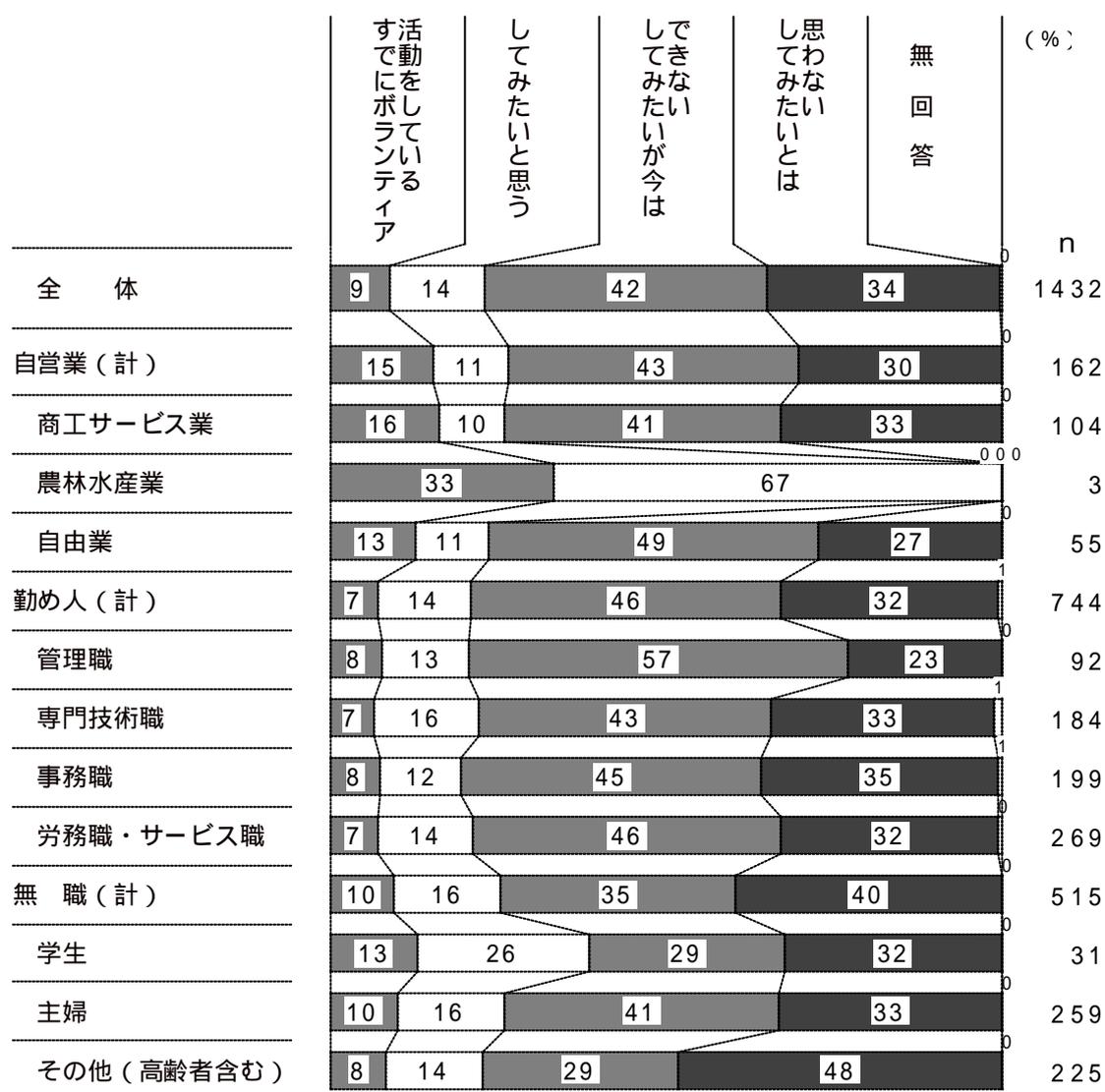
性・年代別にみると、「すでにボランティア活動をしている」は男性 60 代で 1 割半ばを占め、他の世代に比べて最も割合が高くなっている。これに「してみたいと思う」を加えた『参加意向（計）』は、男性 60 代で 3 割を超え、女性 40 代でほぼ 3 割、女性 50 代と男性 30 代で 3 割近くを占めている。（図 4 - 3 - 2）

図 4 - 3 - 2 ボランティア活動への参加経験・参加意向 - 性・年代別



職業別にみると、「すでにボランティア活動をしている」は『自営業（計）』で1割半ばを占め、『勤め人（計）』、『無職（計）』に比べて割合が高くなっている。これに「してみたいと思う」を合わせた『参加意向（計）』は、学生でほぼ4割を占めている。（図4-3-3）

図4-3-3 ボランティア活動への参加経験・参加意向 - 職業別

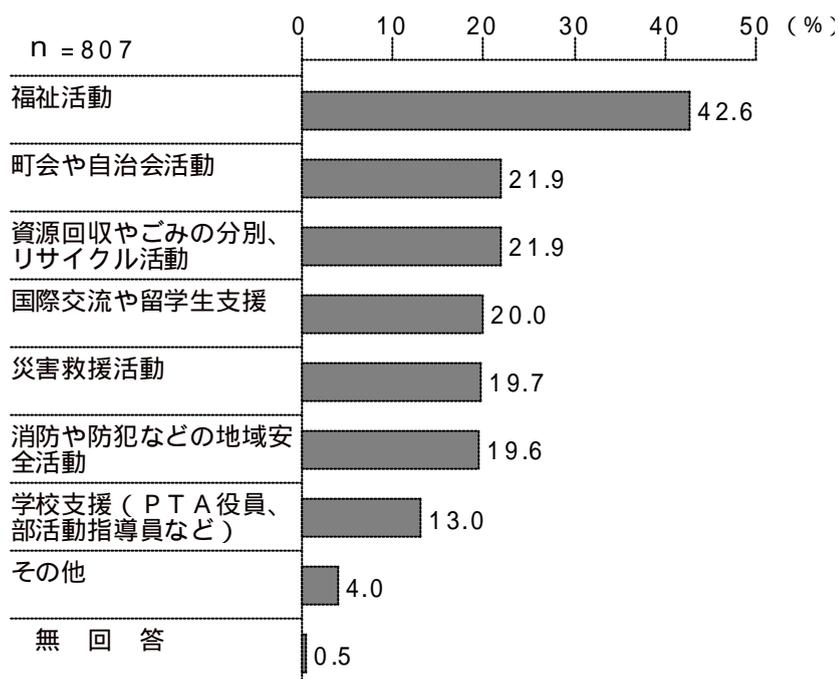


(4) 参加したいボランティア活動

「福祉活動」が4割を超える

(問19で「2 してみたいと思う」または「3 してみたいが今はできない」と回答した方に)
問19-1. どのような活動なら参加したいですか。(いくつでも)

図4-4-1

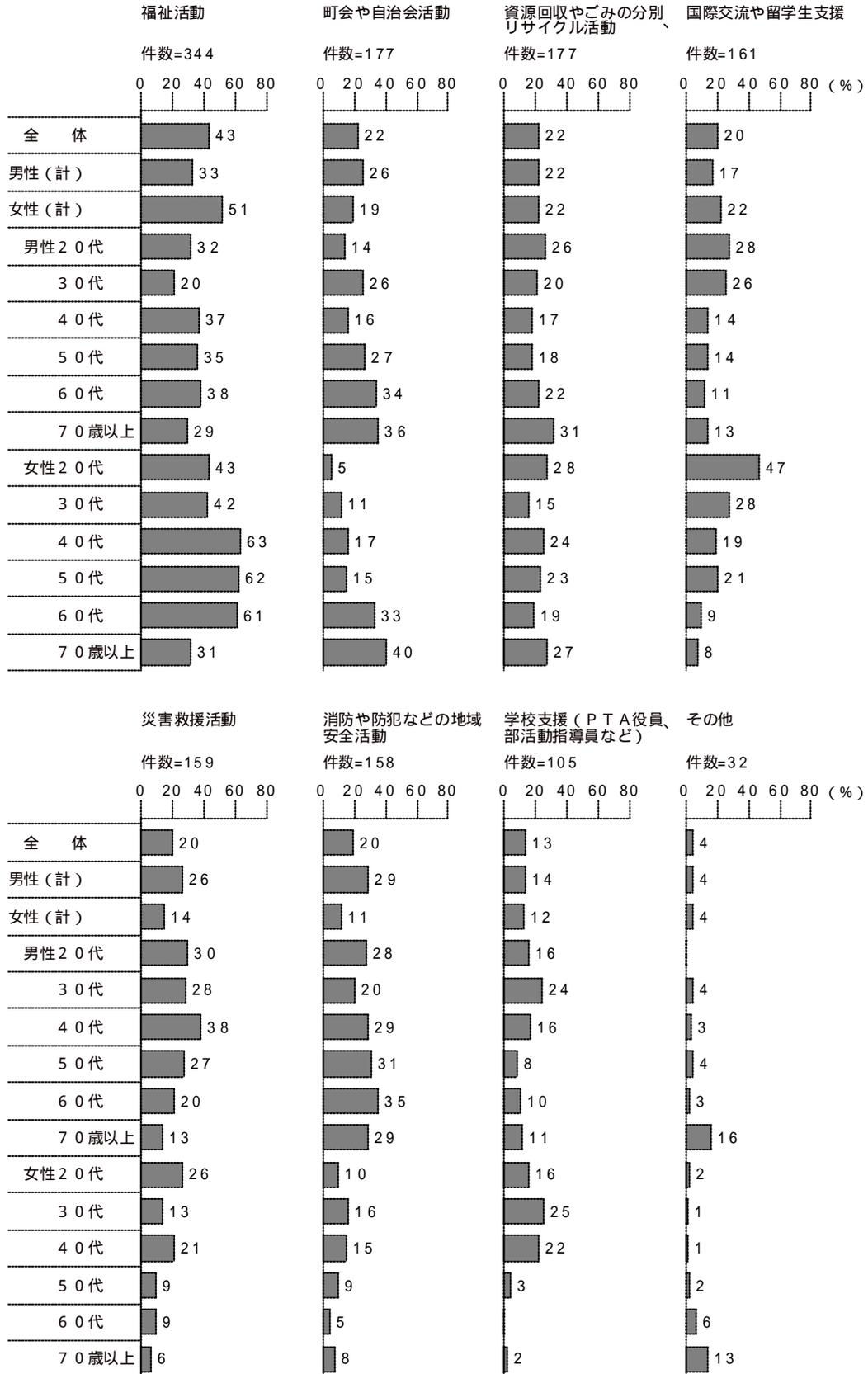


ボランティア活動に参加「してみたいと思う」または「してみたいが今はできない」と答えた人(807人)に、参加したいボランティア活動は何か聞いたところ、「福祉活動」(42.6%)が4割を超えて最も多く、次いで「町会や自治会活動」と「資源回収やごみの分別、リサイクル活動」(21.9%)、「国際交流や留学生支援」(20.0%)、「災害救援活動」(19.7%)、「消防や防犯などの地域安全活動」(19.6%)などの順となっている。(図4-4-1)

性別にみると、女性の方が「福祉活動」で18ポイント高く、男性の方が「消防や防犯などの地域安全活動」で18ポイント、「災害救援活動」で12ポイント、それぞれ高くなっている。

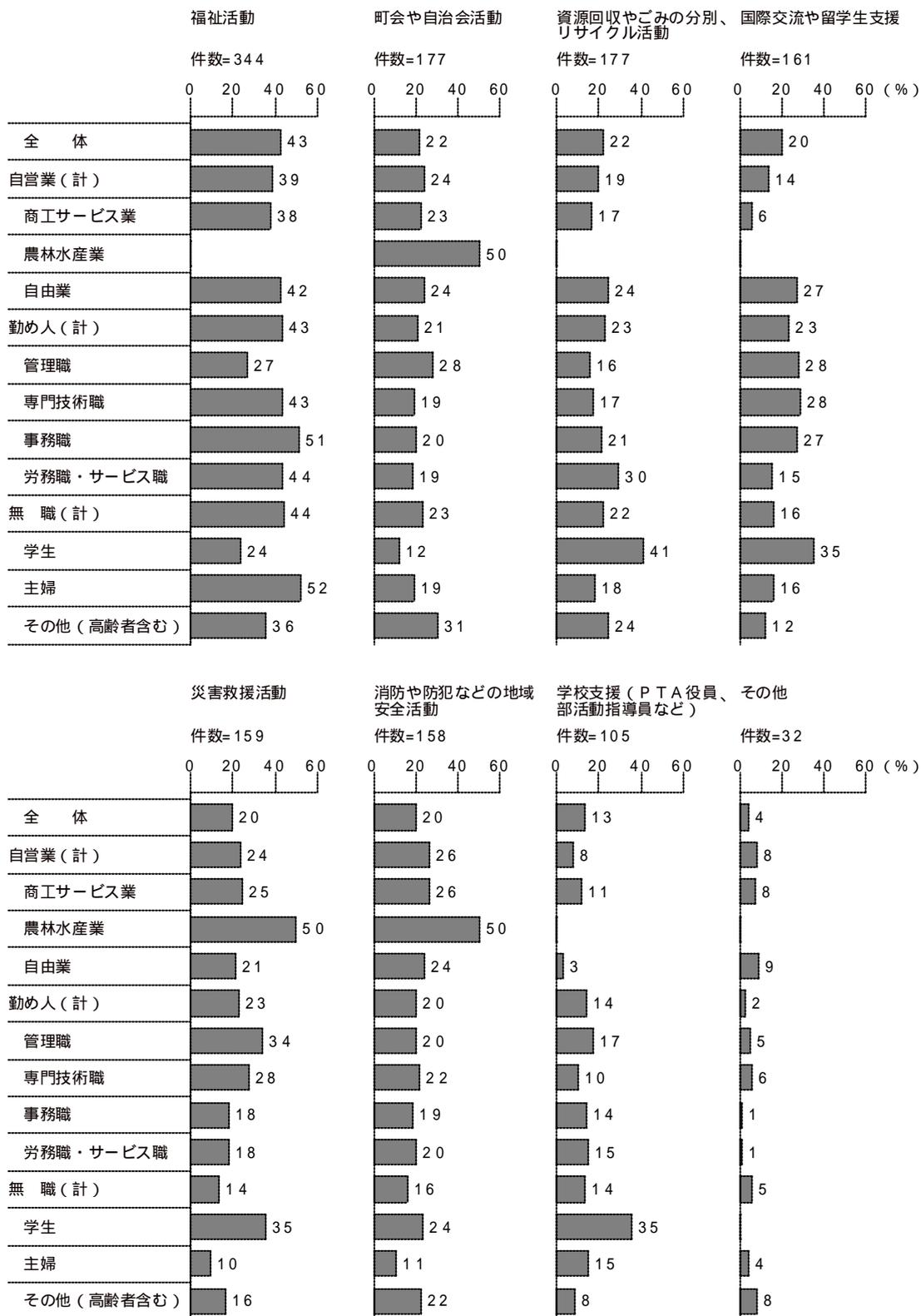
性・年代別にみると、「福祉活動」は女性の40代から60代の年代でいずれも6割を超えて多くなっている。「町会や自治会活動」は男女とも60代以上の年代で3割から4割を占めて多く、「国際交流や留学生支援」は女性20代で5割近くと特に多くなっている。「災害救援活動」は男性40代で4割近くを占めて多く、「消防や防犯などの地域安全活動」は男性60代で3割半ばを占めて多くなっている。(図4-4-2)

図4-4-2 参加したいボランティア活動 - 性・年代別



職業別にみると、「災害救援活動」は管理職と学生で3割半ばを占めている。「学校支援（PTA役員、部活動指導員など）」は学生で3割半ばを占めて多くなっている。（図4-4-3）

図4-4-3 参加したいボランティア活動 - 職業別



(5) ボランティア活動に参加するうえで支障となること

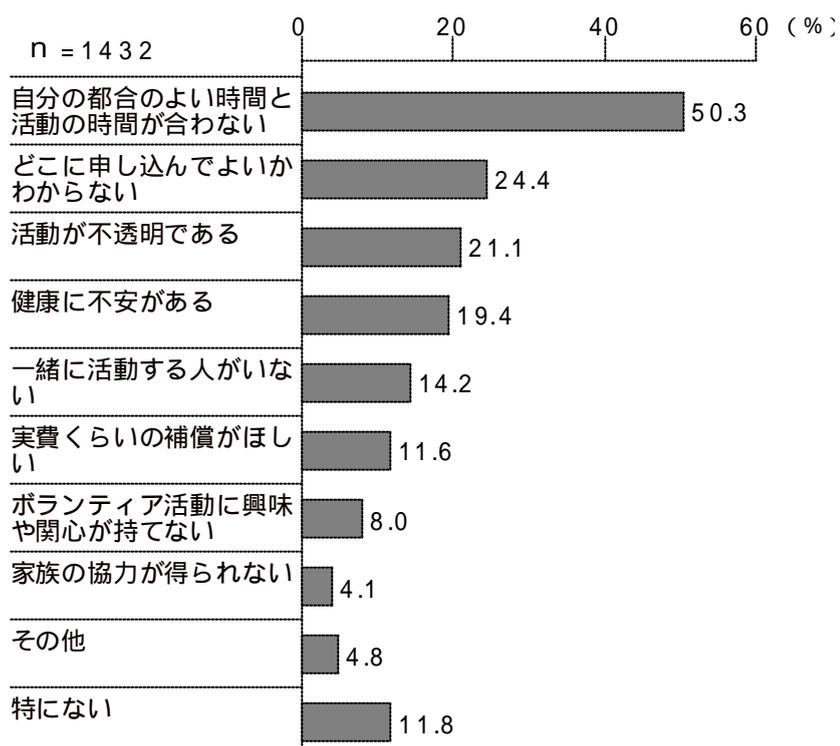
「自分の都合のよい時間と活動の時間が合わない」が5割

(全員の方に)

問20. 実際にボランティア活動をする場合に、活動の妨げになるものは何だと思いませんか。

(いくつでも)

図4-5-1

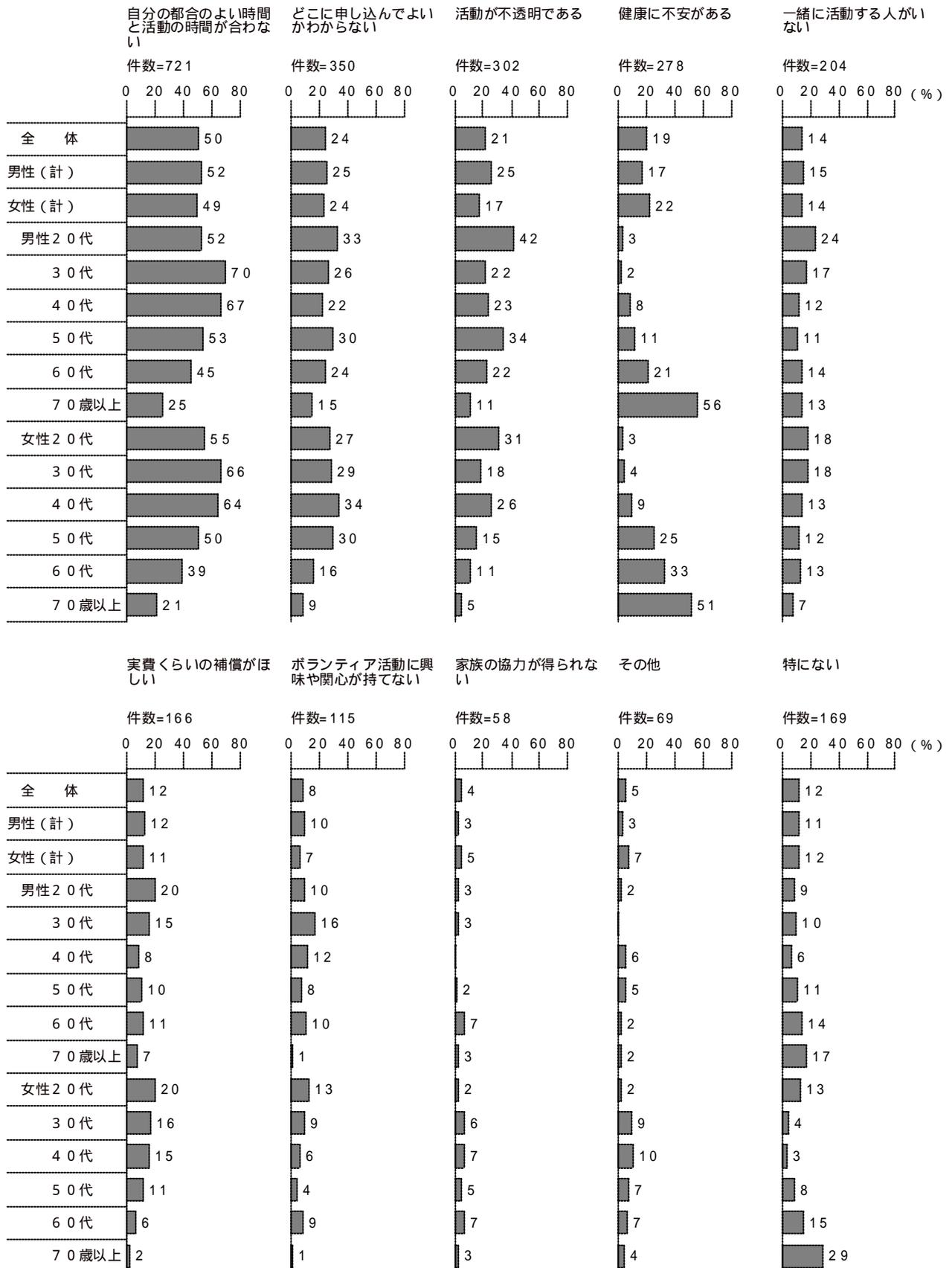


実際にボランティア活動に参加する場合に活動の妨げになるものは何か聞いたところ、「自分の都合のよい時間と活動の時間が合わない」(50.3%)が5割で最も多く、次いで「どこに申し込んでよいかわからない」(24.4%)、「活動が不透明である」(21.1%)、「健康に不安がある」(19.4%)、「一緒に活動する人がいない」(14.2%)などの順となっている。(図4-5-1)

性別にみると、「活動が不透明である」は男性の方が8ポイント高くなっている。

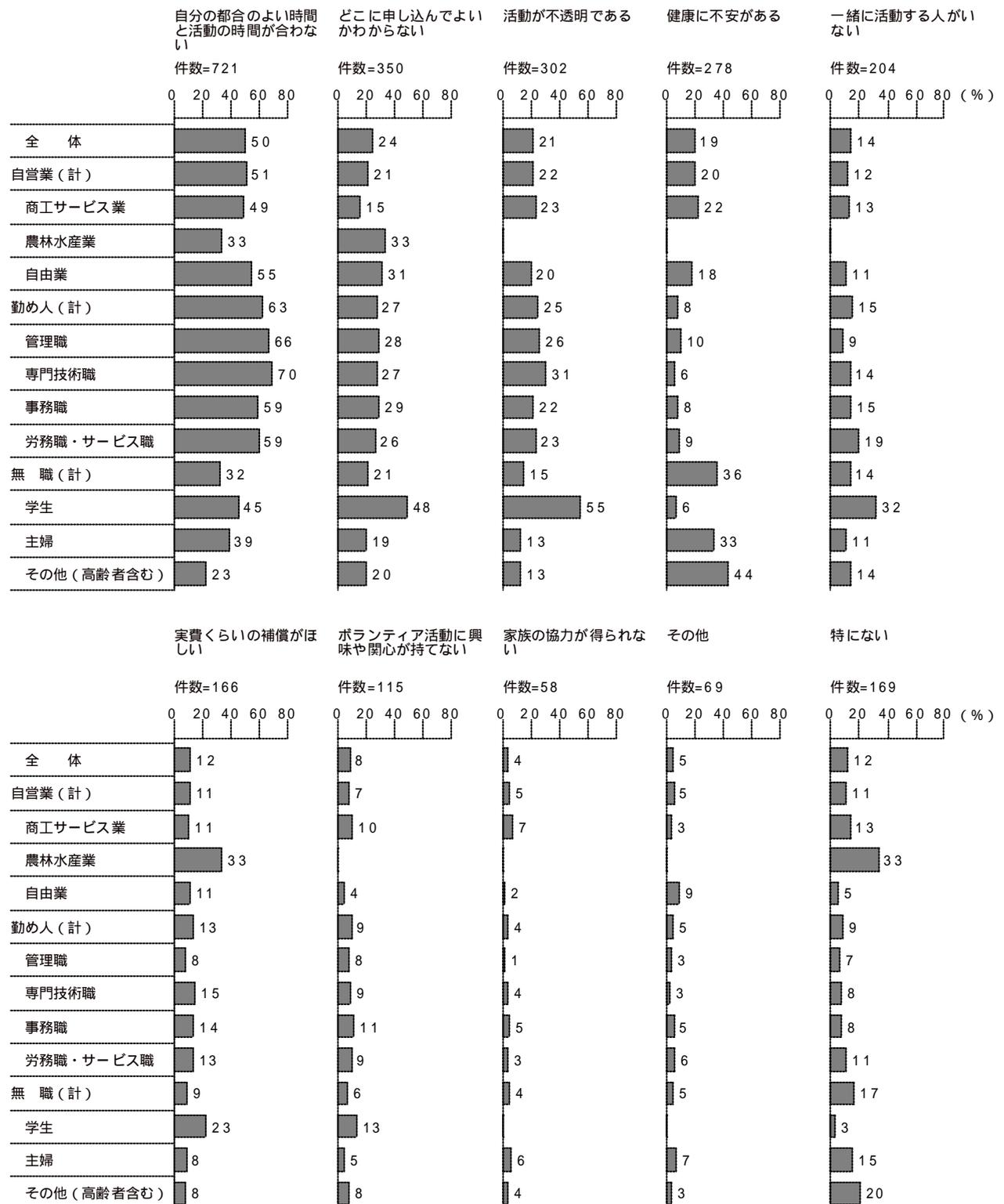
性・年代別にみると、「自分の都合のよい時間と活動の時間が合わない」は男女とも30代と40代の年代で6割半ばから7割を占めて多くなっている。「活動が不透明である」は男性20代で4割を超え、男性50代でも3割半ばを占めて多くなっている。「健康に不安がある」は高い年代ほど割合が高くなっている。「一緒に活動する人がいない」は男性20代で2割半ばを占めて多くなっている。(図4-5-2)

図4-5-2 ボランティア活動に参加するうえで支障となること - 性・年代別



職業別にみると、「自分の都合のよい時間と活動の時間が合わない」は『勤め人（計）』で6割を超えて多くなっている。また、学生では「活動が不透明である」、「どこに申し込んでよいかわからない」、「一緒に活動する人がいない」の割合が高くなっている。（図4 - 5 - 3）

図4 - 5 - 3 ボランティア活動に参加するうえで支障となること - 職業別



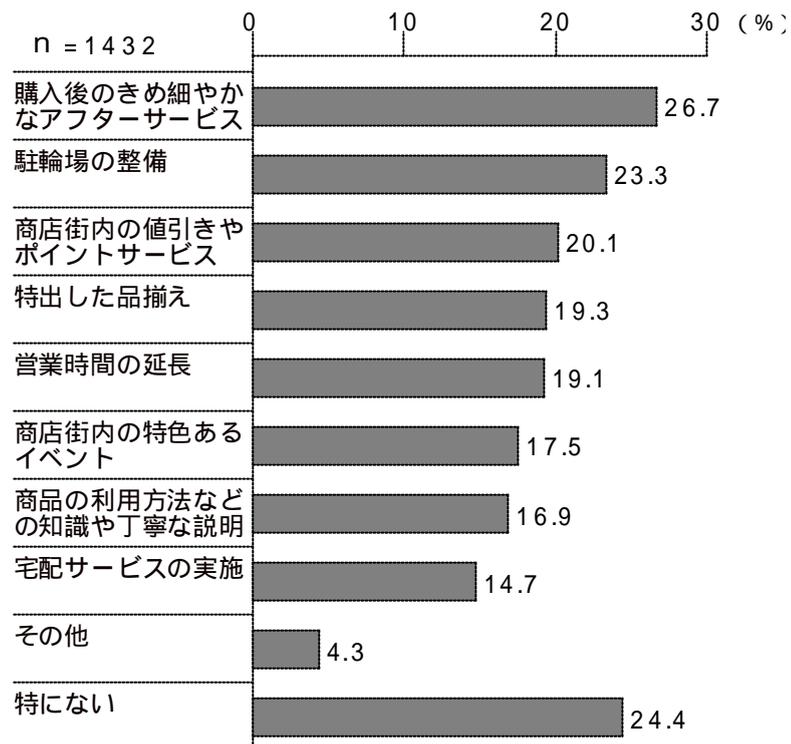
(6) 地元の商店街に対する希望

「購入後のきめ細やかなアフターサービス」が3割近く

(全員の方に)

問21. あなたが地元の商店街に望むことは何ですか。(3つまで)

図4-6-1



地元の商店街に望むことは何か聞いたところ、「購入後のきめ細やかなアフターサービス」(26.7%)が3割近くを占めて最も多くなっているが、「駐輪場の整備」(23.3%)、「商店街内の値引きやポイントサービス」(20.1%)、「特出した品揃え」(19.3%)、「営業時間の延長」(19.1%)などと比べて大きな差はなく、地元の商店街に望むことは多岐に分かれている。(図4-6-1)

地域行政センター管内別にみると、「駐輪場の整備」は大田西地域行政センター管内で3割近くになっている。(図4-6-2)

性別にみると、男女ともほぼ同じ傾向になっている。

性・年代別にみると、「購入後のきめ細やかなアフターサービス」は女性の50代と60代、男性の60代の年代で3割半ばになっている。「商店街内の値引きやポイントサービス」は女性30代で3割を占めて多く、「特出した品揃え」は女性40代で3割を超えて多くなっている。「営業時間の延長」は女性20代で4割を超え、男性の20代から40代の年代でも3割前後を占めて多くなっている。「商品の利用方法などの知識や丁寧な説明」は男性70歳以上でほぼ3割を占めて多くなっている。

(図4-6-3)

図4-6-2 地元の商店街に対する希望 - 地域行政センター管内別

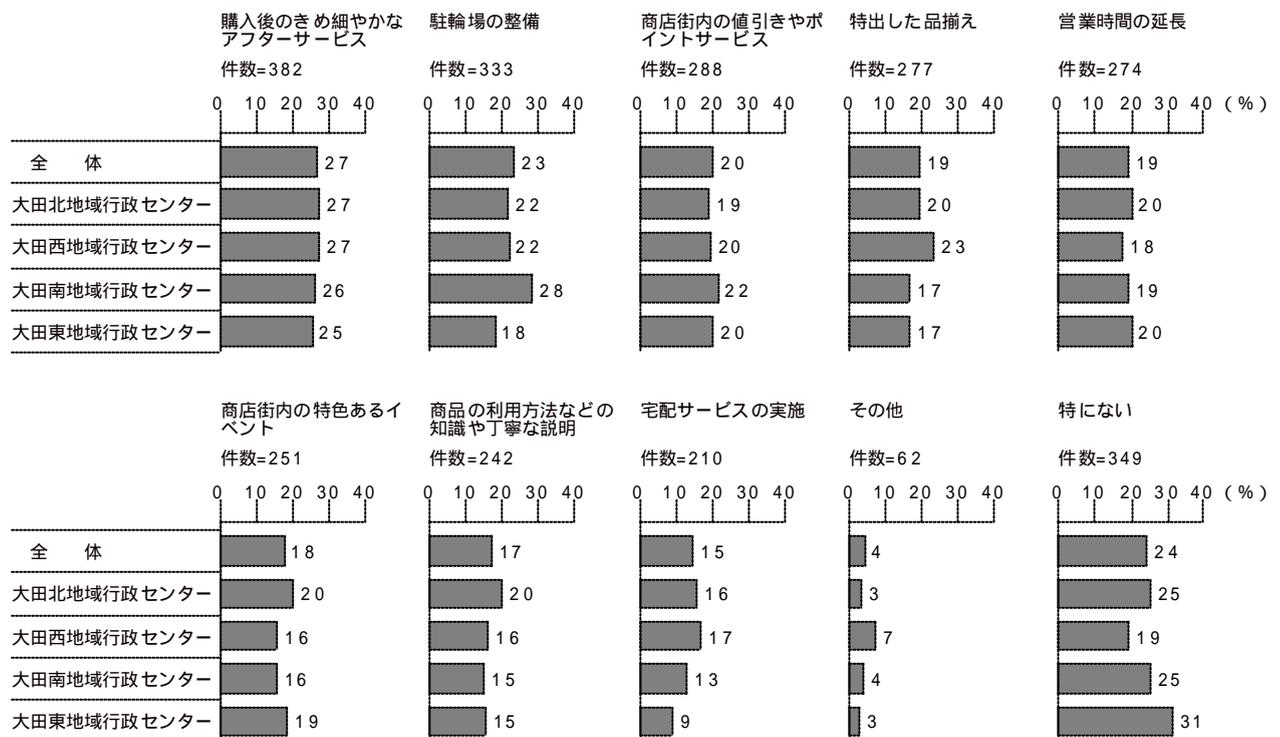


図4 - 6 - 3 地元の商店街に対する希望 - 性・年代別

